

第24回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ東京2014） 実施報告書

レガッタ競技運営本部長 伊藤 雅宣
レース副委員長 中川 二郎
発着水路部長 篠宮 元子

はじめに

第24回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ2014）は、10月5日（日）に、東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所及び若洲沖で、文部科学省、東京都、公益財団法人日本セーリング連盟の後援と、三起商工株式会社（ミキハウス）の特別協賛及び大塚製菓株式会社の協賛を頂いて、一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟（以下JJYUという）と東京都ヨット連盟との共同主催にて開催されました。

昨年に引き続きOP級のみではなく、レーザー4.7の参加も募集しました。参加艇数は、OP級上級者25艇、OP級初級者34艇、レーザー4.7が1艇でしたので、チャーター艇もあることから各クラブに追加でのレーザー4.7の参加を呼掛けましたが、合同強化練習や地元でのレース参加、翌週にレースがある等の理由、或いは指導者の都合等で追加参加が見込めないことからレーザー4.7のレース中止を決定しました。

OP級上級者が25艇、OP級初級者が34艇の59艇、指導者・保護者63名に運営役員50名その他で総勢200名と雨にも拘らず賑やかな大会となりました。

この大会はヨットの普及と国際親善を目的に開催されてきました。近年外国人選手の参加数が減ってきましたが、今年は江東区立小中学校セーリング部のカナダ国籍の選手が参加しました。夢の島ヨットクラブにもカナダ人の子供が練習しているのですがレースには参加しませんでした。

昨年のレガッタの時に、国際交流を図ることを目的に、江東区にあるK.インターナショナルスクールに声を掛け、体験セーリングプログラムを企画しましたので、今年も呼び掛けたところ9名の子供達と9名の保護者の申し込みがありました。

しかし、生憎の台風18号接近のニュースで、残念ながら当日朝に参加取り止めの連絡を頂きました。

又、2020年東京オリンピック・パラリンピックのセーリング競技の会場の準備、整備の為の視察に来場されて、東京都のオリンピック・パラリンピック準備局施設担当課長の水飼和典氏が、（公財）日本セーリング連盟オリンピック・パラリンピック準備委員会副委員長の小山泰彦氏、桑原啓三氏の案内で、A海面のOP級上級者のレースと更に沖合のレース海面やヨット訓練所のハーバー施設等を視察されていました。



若洲ヨット訓練所



雨のため艇庫にて受付

開会式

当日は台風18号接近で朝からの雨模様の為、屋外で予定していた8:30からの開会式を、昨年同様に艇庫の中で行いました。石原伸晃レガッタ会長が公務の都合で欠席となったので、代理で岩崎純秘書と小浜秘書にお出で頂きました。岩崎秘書からご挨拶を頂き、続いて前年度優勝選手から優勝カップの返還を行い、佐藤精知夫レガッタ副会長の開会のご挨拶で開会式は終了しました。

続いてA海面グループとB海面グループに別れてスキッパーズミーティングを行いました。

視界も不良で、風速が上がることも予想し、レーザー4.7も参加しないので、A海面は例年よりハーバーに近い三枚洲で実施すること、自信のない選手は自ら出艇を取りやめる勇気を持つことを説明しました。

ポンド内で実施するB海面については、事前に組分けやレースの実施要領について文書で配布、公示しましたが、改めて具体的に各ディビジョンを識別する色の旗やセールピークに付けるリボンを示しながらスタートシーケンスを詳しく説明しました。



開会式



石原伸晃会長の代理、岩崎純秘書ご挨拶



優勝カップを佐藤精知夫レガッタ副会長に返還



A海面（OP級上級者）スキッパーズミーティング
（高橋祐司レース委員長）



B海面（OP級初級者）スキッパーズミーティング

レース

[A海面：若洲沖三枚洲付近]

海上より、風向20° 風速6~8m/s 視界が余り良くないが現状ならレース可能との連絡がり、OP級上級者頃の出艇を指示。(陸上本部にてクラス旗掲揚)

10:00の予告信号予定を延期して、エントリーした25艇中、2艇が体調等の関係で出艇しませんでした。23艇がレース海面に到達したので、10:25予告信号にて、10:30オールクリアでスタートしました。

第1マークまでのクローズホールドでは、左右どちらかの海面に偏ることなく両サイドへ均等に広がり帆走していました。トップ艇の選手がワールド選手権大会等に出場するほどの選手だという事もあったか、2番艇以降の艇はかなり離れていました。

徐々に風速も上がり、後半の方の選手にはちらほらと沈艇が見られましたが、寒さにも負けずに各選手一生懸命に走っており、トップ艇と2番目以降の艇には差が出ていたものの、ほとんどの選手がフィニッシュすることが出来ました。

DNFは3艇のみでした。

視界もさらに悪くなり、風速も8~9mと上がってきたため、海上のレース委員会信号艇でAP+H旗を掲揚し、ハーバーへの帰港を指示しました。

全艇帰着確認後、各クラブの指導者・保護者を集まって頂いて、海上の状況を説明して、1レースのみで本日のレースを終了することで了解を頂きました。

このような悪天候で、特にジュニアの大会では何よりも安全第一ですので、自分の体力や技術を把握していない選手や、そういう事を指導者に伝えられない選手もいると思いますので、指導者・保護者はより一層留意して欲しいと思います。

今回は、ジュニアのレースに慣れている運営役員をレスキュー艇に配置したこともあり、スムーズな連携で無事に終了することが出来ました。



A海面（OP級上級者）のスタート前



A海面（OP級上級者）のスタート前後のデッドヒート

[B海面：訓練所前ポンド内]

北北東、5～6m/sの風、降雨の悪コンディションの中、OP級初級者のレースは全レースを無事終了しました。全レース1艇の沈も無く、参加選手のなかから「レースは楽しかった」とのコメントも多く聞かれ、運営担当者の疲れを癒してくれました。

レースは予選・決勝方式で行われました。レースに先立ちスキッパーズミーティングでは、レース方式を念入りに説明しました。エントリー34名中、今年セーリングを始めた選手も多く、初めて公式レースに参加した選手が10名弱おりました。そこで、信号旗を使いながらスタートシーケンスの説明も加えました。

予選は4ディビジョンに別け、各ディビジョンは各8、9名の構成で連続2レースを行いました。A海面出艇の遅れの影響を受け、第1ディビジョンは予定時刻より23分遅れてのスタートとなりましたが、陸上運営チームとの連携も良く順調にレースを消化しました。

予選では、各クラスで2、3名がスタートラインにオンタイムに着くことが出来なかったり、十分にシートも引けずにクローズホールドでの帆走に苦勞をしていたようですが、陸上からの大きな声援と指導を受けながら完走していました。

決勝戦は、予選の結果から第1レースは予選7、8、9位、第2レースは予選5、6位、第3レースは予選3、4位、第4レースは予選1、2位の組合せとし、各クラスの1、2位は勝ち残りとして次のクラスのレースに参加できるようにしました。

なお、決勝戦の出艇申告の際に、天候と自己の実力から判断してリタイヤする選手も出たことや、又、遠方に帰らざるを得なかった宮古ジュニアヨットセーリングクラブの選手の決勝戦欠場もあり、急遽第1及び第2レースを併せての組合せでのレースに変更しました。

結果は成績表に示すとおり、千葉ヨットビルダーズクラブジュニアの関根君が、予選、決勝の3レース全て1位で完全優勝でした。特筆すべきは、葉山町セーリング協会の左近君が、予選6位であったにもかかわらず、決勝戦では次々と勝ち残り、最終レースに参加したことでした。

本方式は課題もありますが、限られた海面・時間の中で、選手も楽しめる方法であり、今後、固定できる事項は帆走指示書に掲載できるようにすべきかと考えます。



B海面（OP級初級者） 決勝前のスキッパーズミーティング



ブロンズクラスのレース



シルバークラスのレース





シルバークラスのスタート



一上回航



一上のデッドヒート



優勝した関根巧くんのサイドマーク回航

閉会式・親善パーティ

閉会式・表彰式・懇親パーティは、一日中雨だったため、閉会式と同じく艇庫内で行いました。あまり形式的にならないで楽しく閉会式を進めようと、キッチンカーから艇庫内に順次暖かい出来立ての食事を運んで、まず選手、指導者・保護者の皆さんに食事を始めてもらいました。食事もだいぶん進んで皆さんが賑やかに寛いだところで、佐藤精知夫レガッタ副会長からご挨拶を頂き、閉会式と表彰式が始まりました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が決まり、セーリング競技はこの若洲で行われること、今日参加した選手からもオリンピックの代表選手が生まれて欲しいこと、関係者が一致協力して、東京オリンピックを成功させて行きましようのご挨拶がありました。

成績表と表彰状の準備が整ったところで、高橋祐司レース委員長の成績発表に従って、佐藤精知夫レガッタ副会長から連盟の表彰状とメダルの授与を行ないました。

OP級上級者優勝の江の島ヨットクラブジュニアの藤本 諒さんには、ミキハウス優勝者ジャケット及びクリスタルガラス製の「ミキハウスカップ」が三起商工株の光川取締役総務部長と一昨年のロンドンオリンピックにボードセーリングで出場したミキハウス社員の須永由季選手とから授与されました。

OP級初級者優勝・千葉ヨットビルダーズクラブジュニアの関根 巧君にもクリスタルガラス製の「ミキハウスカップ」が授与されました。OP級上級者、OP級初級者の各クラス1位～6位までに連盟の表彰状、1位～3位に金・銀・銅メダルが授与されました。

J J Y Uが援助しての海外セーリング研修派遣の資格を競う特別賞のクラブ対抗チームレースは、葉山町セーリング協会が受賞しました。

各種目のそれぞれの入賞者にはミキハウスさんから、いろいろな素晴らしいミキハウスグッズが副賞として贈られました。ウィンドサーフィンでロンドンオリンピック出場の須永選手と一緒に写真を撮ったり、サインをもらったりと、楽しく懇親パーティーが進みました。また、入賞できなかった選手たちだけによる「じゃんけん大会」によって、たくさんのミキハウスグッズが順番に贈られて、にぎやかなパーティーとなりました。

高橋有樹プロテスト委員長のレース講評を頂き、閉会式・表彰式・親善パーティーは無事終了しました。



親善パーティー



閉会式、レース結果発表



佐藤副会長から表彰を受けるOP級上級者優勝の藤本諒さん



OP級上級者上位入賞の皆さん



OP級初級者優勝の関根巧くん



OP級初級者上位入賞の皆さん



クラブ対抗チームレース優勝の葉山町セーリング協会



ウィンドサーフィンの須永由季選手



じゃんけん大会

最後に

雨・視界不良・強風の天候に拘わらず無事にレース運営が出来たことは、共同主催者である東京都ヨット連盟の皆さんの絶大な協力があつて初めて可能なことであり、大きな事故も無くレガッタを終了出来たことに感謝申し上げます。

又、協賛・後援を頂いた関係団体及び参加の指導者・保護者のご協力にも改めて感謝申し上げます。報告とさせていただきます。

以上